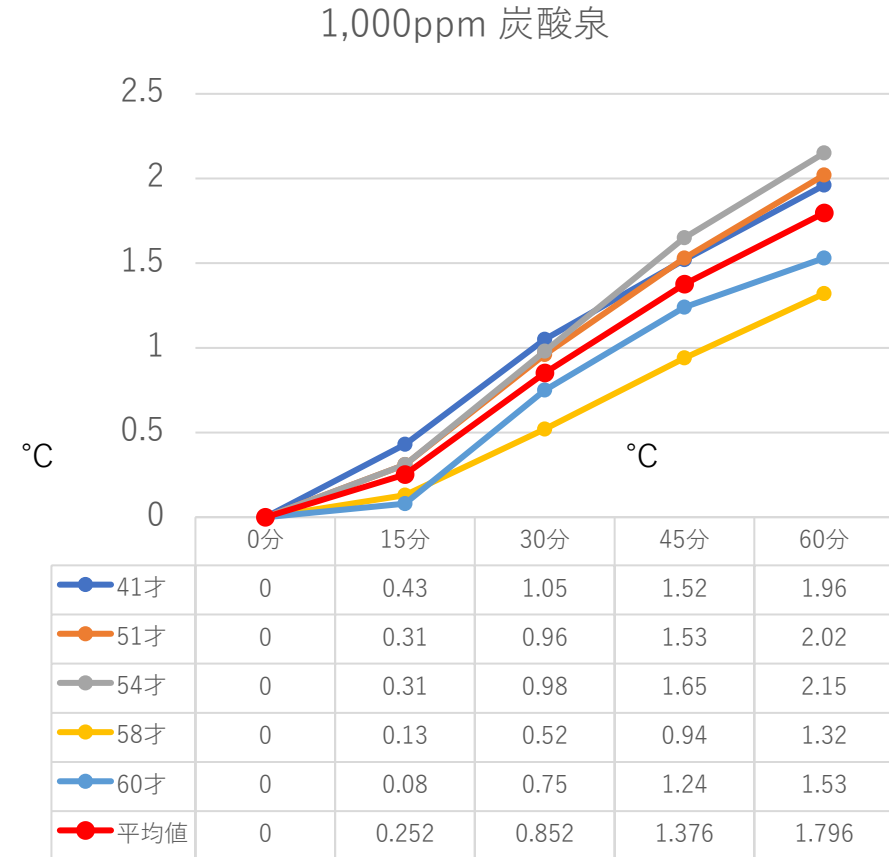
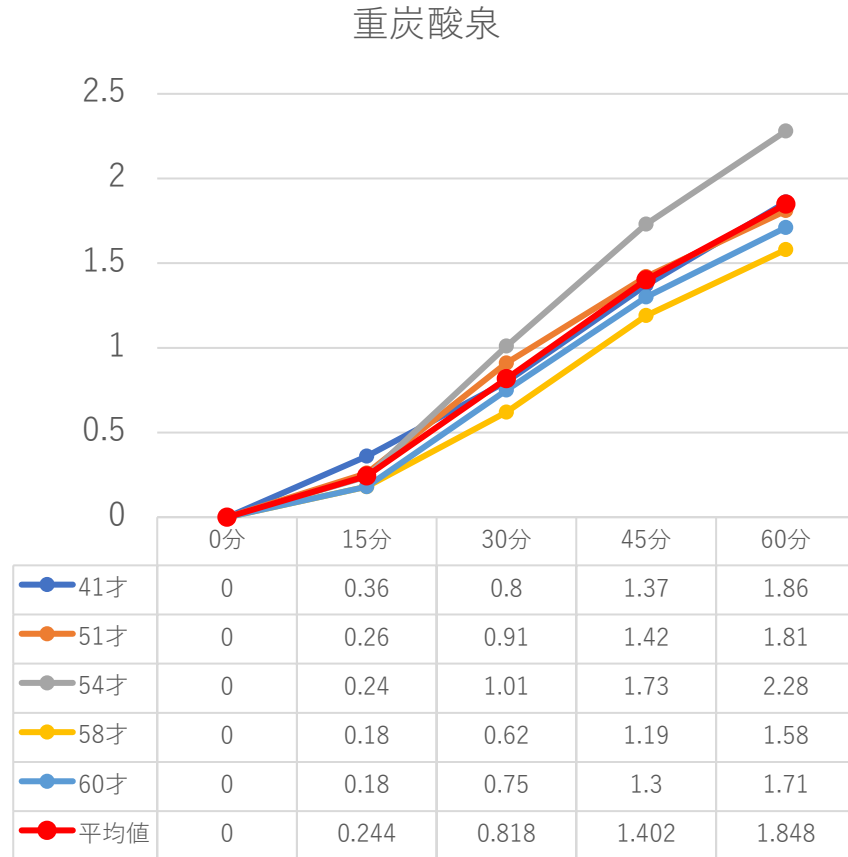


# 湯温39.5°C、60分間 温浴時の深部体温の変化

## 平熱からの体温上昇の比較：健常人女性5名（41～60才）



1. 健常人女性を対象に湯温39.5°C一定、60分間の全身浴を行ったところ、重炭酸泉では温浴前の深部体温から1.58～2.28°C（平均1.848°C）の上昇が得られました。一方、1,000 ppm 炭酸泉では1.53～2.15°C（平均1.796°C）の上昇でした。
2. 一般的に温浴による体温上昇は加齢とともに低くなる傾向がありますが、今回の実験では比較的年齢が若い41才、51才の被験者よりも、年齢が高い54才、58才、60才の被験者において、1,000 ppm 炭酸泉温浴に比べて重炭酸泉温浴でより体温上昇が高くなる傾向がみられました。
3. 特に体温上昇速度の低い高齢層において、39.5°Cという心血管に負担の少ないぬるめの温度での重炭酸泉温浴により、効率のよい芯部の温め効果が期待されます。